

事務事業チェックシート

事務事業No **300** 事業名 **産休等代替職員費補助金交付事業**

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		民生費	
	項		児童福祉費	
	目		児童福祉施設入所費	
	大事業		児童福祉施設入所事業	
事項		産休等代替職員費補助金交付事業		

[長期総合計画]

分野別目標	2	個人を尊重し、人々がともに助け合う優しいまち
政策	3	子育て支援の充実
施策	1	子育て支援の充実
基本方針	1	家庭における子育て支援

[まち・ひと・しごと創生総合戦略]

基本目標		
政策		
施策		

事業種別	継続	主な事務事業	
事業期間		～	
事業実施の根拠法令	児童福祉法		
関連個別計画			
担当課・担当課長 (Tel)	こども総合支援センター	市川雅章(402-7830)	
関連課			

「3つの約束・44の約束」との関連性

3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	非該当
			○	
44の約束				○

1 事業概要及び実施内容

	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）	事業内容				
事業概要	児童養護施設、母子生活支援施設の産休等代替職員費を補助し、施設の職員体制の充実を図る。	産休等で長期休暇を要する職員の代替職員に係る給与の一部を補助する。 《申請までの流れ》 施設から申請→審査・決定→出産前6週間・出産後8週間の間で代替職員雇用→施設より実績報告提出→補助金の支出				
実施内容		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		児童養護施設、母子生活支援施設の産休等代替職員費補助金	児童養護施設、母子生活支援施設の産休等代替職員費補助金	児童養護施設、母子生活支援施設の産休等代替職員費補助金	児童養護施設、母子生活支援施設の産休等代替職員費補助金	児童養護施設、母子生活支援施設の産休等代替職員費補助金

2 事業コスト

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	119	0	119	0	119	0	119	0	119	0
伸び率 (%)	-	-	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
人件費	常勤職員	538	0	957	1,458	1,458	0	0	0	0
	非常勤職員		0		0	0	0	0	0	0
	小計	538	0	957	1,405	1,458	0	0	0	0
国庫支出金		0		0		0		0		0
県支出金		0		0		0		0		0
市債		0		0		0		0		0
その他		0		0		0		0		0
一般財源(税等)	119	0	119	0	119	0	119	0	119	0
所要人数	常勤職員	0.07	0.00	0.13	0.20	0.20	0	0	0	0
	非常勤職員			0.00	0.00	0.00	0	0	0	0
主な予算内訳	和歌山市立旭学園の産休等代替職員への補助金(119千円)									

3 目標及び実績

		指標名及び達成状況			平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	交付件数	年度目標値			1	1	1	1	1
		実績値			0	0	0		
	単位 件	全体目標値	1	全体目標達成度	100.0%	年度別達成度			
		年度目標値		実績値					
成果指標	交付事業所(施設)数	年度目標値			1	1	1	1	1
		実績値			0	0	0		
	単位 箇所	全体目標値	1	全体目標達成度	100.0%	年度別達成度			
		年度目標値		実績値					
単位 人	全体目標値		全体目標達成度		年度別達成度				
	年度目標値		実績値						

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	○ 達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	児童養護施設や母子生活支援施設が職員の産休等を取得する際に補助金を交付することで円滑な雇用に資するなど職場環境の向上を図る事業であるが、H27年度は対象者がいなかった。
「見直し」 「改善」案	縣市合同で母子生活支援施設の建替えを行い、市内の当該施設は1箇所減となった。